

第1回 小山市総合計画策定懇話会

開催年月日 : 令和6年8月8日(木)
開催時間 : 13時31分~15時9分
開催場所 : 小山市役所 本庁舎 6階大会議室

出席委員

山野井 孝、阿久津 治、浅井 秀実、大塚 稔、大橋 雅子、柿崎 全良、
紀 恵理子、齋藤 好子、佐藤 篤史、佐藤 洋、新谷 由里子、
長山 圭子、野口 起生(代理)、福地 里奈、松田 茂樹、宮内 保、
持田 むつ子、大森 宣暁

開会

1 委嘱状交付

(委員を代表して阿久津委員に市長から委嘱状を交付)

2 市長あいさつ

【市長】

委員就任についてご快諾いただきありがとうございます。現行計画が令和7年度で終了することをうけて、新たに令和8年度から令和12年度の5か年間の計画期間とする第9次総合計画の策定をすすめているところ。総合計画は、地方自治体の総合的かつ計画的な行政運営を行っていくための基本的な計画であり、小山市のあるべき姿を示し、その実現への道筋を明らかにするもの。また、現在、市にて策定を進めている田園環境都市おやまビジョンのもとでの最初の総合計画となる。委員のご経験・ご見識にもとづいて様々な意見をいただきながら策定を進めてまいりたいので、よろしくお願いします。

3 委員紹介

(各委員の自己紹介)

4 会長及び副会長の選出

(大森委員を会長に選任)

(野口委員を副会長に選任)

5 議事

(1) 小山市総合計画策定基本方針について

(資料1について事務局説明)

【会長】

ただいまの説明に関して、委員からご意見・ご質問があればお願いします。

(特になし)

【会長】

特にないようですので、基本方針としてはお示しいただいた案どおり進めさせていただきます。

(2) 策定スケジュールについて

(資料2について事務局説明)

【会長】

ただいまの説明に関して、委員からご意見ご質問があればお願いします。

(特になし)

【会長】

特にないようですので、スケジュールとしてはお示しいただいた案どおり進めさせていただきます。

これから1年半かけて基本構想と基本計画を策定するものとなっておりますので、よろしくをお願いします。

(3) 小山市についての各種調査結果について

(資料3について事務局説明)

【会長】

たいへん多くのデータの分析・説明をいただきました。ただいまの説明に関し

て、委員からご意見ご質問があればお願いします。

【山野井委員】

30 ページの高齢単身世帯割合の数値が 61.1 となっており、本市の強みとのことだったが、なぜ強みになるのでしょうか。高齢者単身世帯が多いことは一般的には課題となるように考えています。

【事務局】

記載しているのは偏差値であるので、高齢単身世帯割合が小さい場合に数値が高くなるようになっています。

【山野井委員】

説明を受けて理解しましたが、考え方が難しいです。

【会長】

資料 3-2 はすべて偏差値で記載されています。同ページの「人口あたり宗教の事業所数」など、項目によっては強みとするか弱みとするかの判断が難しい部分があるかとは思いますが。

【齋藤委員】

この資料を見て、小山市としてどの方向性に行きたいかが定かでないと感じました。具体的にどのような方向に進めたい等の想定はありますか。

【会長】

具体的にどのような方向に進めるかについてはこれから検討していく事項であると考えていますが、事務局としてはいかがでしょうか。

【事務局】

現時点でどの方向性に進めたいかを示すのは難しいですが、これらの結果を踏まえ、小山市としてどの方向に行きたいかを検討していきたいと考えています。

【大橋委員】

39 ページの総括に弱みとして「生涯学習講座の数や教育施設の利用者が少ない」旨の記載があります。個人的にも同意する部分ではありますが、50 ページに記載の出典を確認すると、「教育機会の豊かさ」の中の 4～7 について「不明」と

の記載があります。総括に記載の内容は何を根拠に記載したのでしょうか。

【事務局】

出典は明らかなのですが、公開年月日と更新頻度が不明という記載です。

【大橋委員】

根拠となる数は把握できているということでしょうか。

【事務局】

把握できています。

【阿久津委員】

比較団体として栃木市、熊谷市、伊勢崎市及び土浦市を選定した理由を教えてください。

【事務局】

比較団体の考え方はいろいろあるが、今回は北関東にあるやや大きめの自治体という点で選定しています。人口規模、財政規模のほか、交通利便性に優れている等の共通点があります。条件が類似している自治体同士を比較することで、強みと弱みがわかると考えています。

【阿久津委員】

承知しました。

【新谷委員】

比較団体を人口規模で選んだことは理解しました。人口構造や流入・流出状況についても似通っている団体と比較できれば、より意義のあるデータを得られるのではないのでしょうか。

【事務局】

参考にさせていただきます。

【宮内委員】

今後の計画を考えるときに、基礎資料としてこれだけで十分なのか気になりました。小山市は田園環境都市であるが、同時に産業がさかんである側面もあるので、数値から一面だけ取り上げると齟齬が生じるように思います。また、生産

年齢人口の減少と高齢人口の増加という記載についても気になりました。生産年齢人口は 65 歳までを指すが、実際は 65 歳になっても働いている人も多いです。単なる人口構成・動態だけを見るのではなく、実際に働いているかどうかという視点も重要ではないでしょうか。

【事務局】

人口については、別途人口推計を作成する予定です。経済についても別途経済分析をする予定です。

ご指摘のとおり、65 歳になっても働いているかどうかという視点も持って、分析するようにしたいと思います。

【野口委員（代理：大関様）】

35 ページの「教育機会の豊かさ」について、以前、私立高校がないことが小山市の最大の弱みであるというレポートを出したことがあります。「可住地面積あたり私立・国立中高一貫校数」を見ると他自治体と変わらない偏差値となっていますが、小山市に私立高校がないので、弱みであるのではないかと感じています。

【事務局】

多い方が偏差値が高く出る項目です。数値の詳細は確認します（別紙参照）。デジタル庁の出しているデータなので、あくまで全国や他自治体との比較にとどめ、詳細については個別に判断していく必要があると考えています。

【持田委員】

39 ページに強みとして記載の「男女や国籍など多様な社会を実現できている」について、まだまだ課題が多いと感じています。何を根拠にした記載なのでしょう。

【事務局】

31 ページの結果を踏まえた記載となっています。他団体比較・偏差値に基づく数値的な判断にすぎませんので、委員はじめ実際に地域に携わっている方々の意見を踏まえて最終的な判断につなげたいと考えています。

【会長】

あくまで数字なので、実情は別途鑑みていく必要があると考えています。

【佐藤洋委員】

16 ページについて、小山市は車が多く、交通渋滞も多い印象を受けています。鉄道網が充実していて交通の要衝とは言われるが、利便性は高くないと考えています。それを踏まえて指標を見たが、「駅・バス停留所徒歩圏人口カバー率」が想像以上に低くなっています。駅・バスの徒歩圏とは具体的にどれくらいなのでしょう。個人的には栃木市のほうが不便ではないかと感じていたのですが理由について伺いたいです。

【事務局】

徒歩圏の範囲については確認のうえ後ほど回答させていただきます。比較については現時点では定量的なものでしかありません。

【会長】

42 ページ目に駅は 800 メートル、バス停は 300 メートルとの記載があります。調査年が 2014 年となっているが、その後に導入されたコミュニティバスは反映されていないかもしれません。

【大塚委員】

比較団体それぞれに地域性があろうかと考えます。単なる生産年齢人口ではなく、そういった地域性も含めて分析いただければよいかと思います。

また、39 ページに「家族とのつながりが維持され孤独を感じる人が少ない」という記載について、本当にそうなのか疑問です。閉じこもっている人が多い印象なので、そうした実情も考える必要があります。「男女や国籍など多様な社会を実現できている」との記載についても、市内に 7,000 人いる外国人との多文化共生に苦慮しているはずなので、強みとしてのみ分析するのは違和感があります。

【事務局】

指標はひとつのデータに過ぎません。実際に小山市に居住する市民が感じるものが大切だと思うので、皆様の意見を伺い、反映していきたいです。

【会長】

39 ページについて客観的な事実は記載してよいが、「孤独を感じている人が少ない」等、市民が実際にどう感じているかはデータからはわからないと思うので、書き方に留意が必要であると考えます。

【事務局】

数字から読み取れるところを記載するようにします。

【新谷委員】

資料中の「総括」は一般に公表されますか。

【事務局】

懇話会の結果をホームページに公表するので、その際にあわせて公開させていただきます。

【新谷委員】

男女共同参画が進んでいるという内容を出すのは、慎重になる必要があると考えます。数字はたしかにそうかもしれないが、受け手がどう受け取るかを考えないといけません。また、男女共同参画の指標として、自治体の管理職の割合を上げている点にも違和感があり、民間企業の管理職割合や賃金格差が無い等の考え方の方が重要であると感じます。

【事務局】

「総括」の表現等、再検討させていただきます。

【会長】

(3) 議事は以上にさせていただきます。

(4) その他

(第2回懇話会に関する案内)

6 閉会

以上

「可住地面積あたり私立・国立中高一貫校数」の数値に関する回答

「可住地面積あたり私立・国立中高一貫校数」について、根拠としている文部科学省資料では、平成 10 年の学校教育法改正により平成 11 年度から選択的に導入された「中高一貫教育制度」（以下、同制度といいます）を導入した学校を取りまとめたものであり、平成 10 年度以前から行われていた同制度に基づかない学校は含まれていないため、小山市を含め、比較団体となる栃木市、熊谷市、伊勢崎市には同制度に基づく学校が確認できませんでした。

そのため、小山市、栃木市、熊谷市、伊勢崎市は偏差値が 47.1 となっているものと考えられます。土浦市には同制度に基づく私立中高一貫校が1校存在するため、偏差値が 49.2 になっているものと考えられます。

【参考】

●私立中高一貫校

平成 28 年度 高等学校教育に関する推進状況について

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/04/13/1384268_001.pdf

土浦市：土浦日本大学中等教育学校が該当

※伊勢崎市に四ツ葉学園中等教育学校があるが公立のため対象外

※國學院大學栃木高校・中学校は平成 10 年度以前から中高一貫教育が実施されており、同制度に基づかない学校とされたため対象外

●国立中高一貫校

国立高校一覧 | ナレッジステーション

<https://www.gakkou.net/kou/src/?srcmode=s&s=1>

いずれの自治体にも該当なし